



大阪ダブル選

# 都構想めぐり激論

## 立候補予定者が討論会

4月7日投開票の大阪府知事・市長のダブル選で、産経、朝日、毎日の在阪新聞3社は18日、立候補を予定している4人を招き、大

阪市内で合同討論会を実施した。大阪市を廃止して特別区に再編する大阪都構想の実現を掲げ「新しい大阪都の制度が必要」と主張する



大阪維新の会の2人に対し、自民党が擁立する2人は「都構想議論を終わらせ」とした。

出席したのは、知事選に立候補を表明した維新政調会長の吉村洋文・大阪市長(43)と自民、公明府本部などが推薦する元府副知事、小西禎一氏(64)。市長選に立候補表明した維新代表の松井一郎府知事(55)と自民、公明府本部推薦の元大阪市長、柳本頭氏(45)。

吉村氏は「大阪府と大阪市が同じような権限を持ち、二重行政を重ねてきたため、『府市(ふし)あわ

せ」と呼ばれてきた」とし、解消するのが都構想だと強調。小西氏は「大阪府は地方分権を進めるために市町村への権限移譲を進めてきた」と説明。大阪府を廃止する都構想は基礎自治体の役割を強化する分権の流れに反すると批判した。

知事から市長選に出る選択について松井氏は都構想の再挑戦を掲げ、勝利した前回ダブル選(平成27年)に言及。「そのときの公約を守りきるため、もう一度民意を得たい」と訴えた。

柳本氏は「市長は市長選に、知事は知事選に出て、改めて民意を問えばいい」と反論。入れ替えの手法には「暴挙としかいようがなく、党利党略の選挙戦は許せない」と非難した。

26面に「はや火花」

